

Wind River Studio Operator

VMとコンテナアプリケーションを利用できる オンプレミスプライベートクラウド環境

運用担当者は、変化するユーザーの要件に対応しながら、パーソナライズされた適応性の高いサービスを効率的に企業ネットワークやエッジネットワーク上で展開する必要があります。プライベートクラウドを活用することで、低遅延、自動化、高可用性、セキュリティ、スケーラビリティ、柔軟性といった利点を備えた運用が可能になります。

Wind River® Studio Operatorは、プライベートクラウドの運用者向けに、クラウドインフラのグローバルな展開と管理を支援し、運用機能とIT機能を地理的に分散したネットワーク上で統合的に実行できる、柔軟でコスト効率の高いプラットフォームです。統合型クラウドプラットフォーム、自動化オーケストレーション、モニタおよび解析機能を備えており、クラウドインフラの最適化と安定した運用をサポートします。単一のコンソールから仮想マシン（VM）とコンテナのデプロイ、オーケストレーション、管理を行うことが可能です。

Studio Operatorは4つの主要コンポーネントで構成されています。

/ Studio Cloud Platform

Studio Cloud Platformは、クラウドネイティブで分散型のKubernetesプラットフォームを活用し、エンタープライズやエッジクラウドインフラの構築・展開を行うアーキテクト向けに設計されています。オープンソースプロジェクト「StarlingX」をベースとしており、シングルやマルチノードおよび、分散型クラウドネットワークのデプロイと自動化を、シンプルかつ効率的に実現します。

/ Studio OpenStack

Studio OpenStackは、コンテナ化された OpenStack コントロールプレーンを活用し、VM インフラの管理を実現するオープンソースプロジェクト OpenStack の商用サポート版です。Studio Cloud Platformと組み合わせて Studio OpenStack を導入することで、プライベートクラウド運用者は、コンテナベースおよび VMベースのアプリケーションを、単一の管理コンソールと統合された技術スタックから効率的に管理できます。

/ Studio Conductor

Studio Conductorは、グローバルに分散したネットワークの管理と自動化機能を、単一のコンソールで提供します。クラウドの計画・運用チームは、アプリケーションカタログからアプリケーションを選択し、コンテナやVMをプライベートクラウドに展開し、リソースのオーケストレーションを簡単に行うことができます。数ノードから数千ノードまでシームレスに拡張できます。

/ Studio Analytics

Studio Analyticsは、クラウドインフラ上の活動を把握し、問題が発生する前に対応することを支援します。クラウドインフラのクラスターやサービスをフルスタック監視し、クラウドの動作データを収集・処理・分析・可視化します。これにより、分散型クラウドシステムの管理が可能になり、機械学習を活用して意思決定に役立つ洞察を得ることができます。

主な利点

企業は、堅牢で高性能なプライベートクラウドインフラを必要としています。Studio Operatorは、これを実現するために必要な機能を提供します。

- ・ 数千の小規模なフットプリントのエッジサイトからエンタープライズデータセンターの大規模なクラスタまで、VMとコンテナの両方を単一のテクノロジースタックから管理
- ・ 公共のクラウドインフラストラクチャへの依存と関連コストを削減
- ・ コミュニティサポートと専門知識を備えたオープンソース技術を最優先し、ベンダーロックインを回避
- ・ 高性能で完全サポートされたカーネルを使用し、クラウドサーバーのデプロイメントごとにLinuxのライセンスを個別に取得する必要性を排除
- ・ Wind River Studioの分散アーキテクチャにより、コアからエッジシステムまで、高性能、低遅延、効率的なリソース割り当てを実現
- ・ 収益を生み出すサービスの導入を自動化
- ・ ゼロタッチデプロイメントにより、クラウドネイティブなネットワークを有効化し、複雑性を最小限に抑え、運用上のオーバーヘッドと展開時の負担を軽減
- ・ ソフトウェアの更新、パッチ、日常業務など、複数のサイトの管理を単一のダッシュボードから自動化
- ・ 地理的に分散した環境で数千のノードにまで拡張できる機能を提供し、完全にエンドツーエンドでインフラとアプリケーションのデプロイメントを自動化およびオーケストレーションすることを実現

主な特長

Studio Cloud Platformは、高性能、高可用性、自己修復機能を備えたクラウドインフラストラクチャのスタンダードです。

- ・ シングルノード、マルチノード、分散型クラウドまたはプライベートクラウドのインフラストラクチャを管理するための、商用グレードのKubernetesクラウドプラットフォーム
- ・ OpenInfra Foundationの一部であるオープンソースプロジェクトの「StarlingX」ベース
- ・ 実時間実行性を確保し、高性能かつ超低遅延
- ・ アプリケーションのダウンタイムゼロを目指した高可用性
- ・ 1ノードから数千ノードまで拡張可能
- ・ 企業、通信エッジ、コアネットワークに最適
- ・ ハードウェアリソースの使用を最適化する柔軟な導入構成のサポート
- ・ 設計段階から完全に統合されたセキュリティ
- ・ ゼロタッチプロビジョニングと単一コンソールによるホストレベルの管理により、構築フェーズと運用フェーズを簡素化
- ・ ワークロードの自動移行

エンタープライズおよび通信事業者向けサポート

Wind River Studio は、受賞歴のあるグローバルサポートチームが複数のタイムゾーンでサポートを提供しています。標準的なTier 1およびTier 2の障害対応/修復サポートを提供しているほか、24時間365日体制で緊急復旧とサービス復旧を行うサービスもご用意しています。多角的なセルフヘルプとオプションのプレミアムサービス、オンラインのWind River Support Networkを活用し、開発者は迅速な問題解決を実現できます。詳細については、www.windriver.com/japan/support.comをご覧ください。



Studio OpenStackは、コンテナ化されたOpenStackサービスをデプロイし、VMのオーケストレーションと管理を行います。

- ・ Kubernetesプラットフォーム上でOpenStackのコントロールプレーンをネイティブにホストし、インストールやアップグレードを簡単に実行
- ・ コンテナ化されたデプロイメントと、Studio Cloud PlatformのStarlingXによる管理を組み合わせることで、OpenStackの世界に分散アーキテクチャを実現
- ・ シンプルなHelmチャートを使用してOpenStackをデプロイし、コンテナとしてサービスを簡単に管理
- ・ 単一の管理コンソールとテクノロジースタックを使用して、レガシーVMとコンテナをデプロイおよび管理

Studio Conductorは、自動化されたソフトウェア主導のサービス提供の基盤を確立し、組織のコスト管理を支援します。

- ・ 複雑なトポロジーの管理
- ・ 複数のサイトにわたるサービスの作成
- ・ ドラッグ・アンド・ドロップによるサービス作成が可能なアプリケーションカタログ
- ・ 数千のサイトにわたる自動デプロイメント
- ・ クラウド、サブクラウド、プライベートおよびパブリックネットワークにわたるデプロイメント

Studio Analyticsは、分散型ネットワークの運用を最適化するために、データ収集、モニタリング、分析、レポートを統合しています。

- ・ ニーズに合わせた幅広く詳細なデータセットの収集
- ・ ログやメトリクスを含む構造化データと非構造化データを集約
- ・ レプリケーション・インデックスを含む処理とストレージのメリットを享受
- ・ データを活用した分析により、深い洞察の取得
- ・ プロアクティブなアラートと包括的なレポートの受信

WINDRIVER

ウインドリバー株式会社

〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー

www.windriver.com/japan

ウインドリバーは、ミッションクリティカルなインテリジェントシステム向けのソフトウェアを提供する世界的なリーダーです。40年以上にわたり、イノベーターかつパイオニアとして、最高レベルのセキュリティ、安全性、信頼性を数十億を超えるデバイスやシステムに提供しています。ウインドリバーのソフトウェアと専門性の高い包括的なポートフォリオは、あらゆる業界のデジタルトランスフォーメーションを加速させています。

©2025 Wind River Systems, Inc. Wind Riverのロゴは、Wind River Systems, Inc.の商標です。Wind RiverおよびVxWorksは、Wind River Systems, Inc.の登録商標です。記載されているその他の商標は、各所有者に帰属します。本印刷物に記載されている内容は予告なしに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

Rev. 01/2025